奈良工業高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	英語Ⅲ

科目基礎情報

科目番号	0042	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	機械工学科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	ニューアングル総合英語　New Angle English Grammar 47 Textbook（教育開発出版）・SKYWARD OCEAN Course 2nd Edition（桐原書店）		
担当教員	石水 明香		

到達目標

1．文の種類、文型、時制、受動態を理解し、正しく表現することができる。
2．不定詞、動名詞を理解し、正しく表現することができる。
3．分詞、関係詞、仮定法を理解し、正しく表現することができる。
4．接続詞、話法、否定、強調・倒置、代名詞を理解し、正しく表現することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	３００語程度の長文を読み、内容を正しく理解することができる。	３００語程度の長文を読み、内容をおおむね理解することができる。	３００語程度の長文を読み、内容を正しく理解することができない。
評価項目2	文法事項や構文を理解し、正しく運用することができる。	文法事項や構文を理解し、おおむね運用することができる。	文法事項や構文を理解し、正しく運用することができない。
評価項目3	短い英会話や説明文を聴き、リスニングの問題を正しく解くことができる。	短い英会話や説明文を聴き、リスニングの問題をおおむね解くことができる。	短い英会話や説明文を聴き、リスニングの問題を正しく解くことができない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程（本科１～５年）学習教育目標 （３）

教育方法等

概要	本講義は、学生が将来英語の論文を読み書きするための基礎づくりとして、大学入試で扱われる程度の語彙力と文法の強化を図り、長文を読み正確に内容を理解する読解力を身につける。第１・２学年で学習した長文読解や文法の復習だけでなく、その知識を活用し、簡単な英語で自分の考えや意見を表現する力を伸ばす。
授業の進め方・方法	ニューアングル総合英語を使って、第１・２学年で習得した文法に関する知識を更に深めていく。SKYWARDを使って様々なテーマの英文を速読し、大意把握問題に取り組み、書く力を養う言語活動を行う。また、英語の音声に慣れ親しむために、音読活動も行う。
注意点	欠席による小テストの未受験や課題未提出については、公欠またはそれに準ずる欠席に限り対応する。 到達目標を達成するために、予習復習を自主的に行い学習内容の定着を図り、ラジオやインターネット等を活用し「楽しみながら」英語に触れる時間を設け、自学・自習に努めること。 事前学習・・・授業に関する資料を予め提示するので、それをもとにノートを作成した上で受講すること。また、授業内容に該当する教科書を読み、定義が不確かな単語については辞書で調べておく。 事後展開学習・・・授業に関する練習問題を解き、定着を図る。また、長文読解に関しては、授業で配布する解説をよく読み、理解を深めておく。

学修単位の履修上の注意

本授業は学修単位科目に該当しない。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	Unit 1　文の種類と文型（1）・　Unit 2　文の種類と文型（2）	平叙文（肯定文と否定文）・疑問文・命令文・感嘆文・動詞の使い方・基本5文型を理解し、それらを用いて表現することができる
		2週	Unit 3　文の種類と文型（3）・　Unit 4　基本時制（1）	注意すべき動詞の使い方・群動詞・現在形・現在進行形・過去形・過去進行形を理解し、それらを用いて表現することができる
		3週	Unit 5　基本時制（2） Unit 1　旅行	未来を表す表現・注意すべき時制の用法を理解し、それらを用いて表現することができる
		4週	Unit 6　完了形（1） Unit 2　環境	現在完了形・現在完了進行形を理解し、それらを用いて表現することができる
		5週	Unit 7　完了形（2）・まとめのテスト1 Unit 3　心理学	過去完了形・過去完了進行形・未来完了形を理解し、それらを用いて表現することができる
		6週	Unit 11　受動態（1） Unit 4　衣食住	受動態の意味と形・助動詞を含む受動態・進行形・完了形の受動態を理解し、それらを用いて表現することができる
		7週	Unit 12　受動態（2） Unit 5　人体	受動態と文型・受動態の慣用表現・群動詞の受動態・注意すべき受動態を理解し、それらを用いて表現することができる
		8週	Unit 13　不定詞（1） Unit 6　宇宙	不定詞の3用法を理解し、それらを用いて表現することができる
	2ndQ	9週	Unit 14　不定詞（2） Unit 7　言語	不定詞の意味上の主語・不定詞の否定形・代不定詞・不定詞を含む重要表現を理解し、それらを用いて表現することができる
		10週	Unit 15　不定詞（3） Unit 8　商業	原形不定詞・不定詞の完了形・不定詞の進行形・不定詞の受動態を理解し、それらを用いて表現することができる
		11週	Unit 16　不定詞（4） Unit 9　生物学	〈be動詞+to-不定詞〉・不定詞を含む慣用表現・独立不定詞を理解し、それらを用いて表現することができる

		12週	Unit 17　動名詞（1） Unit 10　歴史	動名詞の用法・動名詞の意味上の主語・動名詞の否定形・動名詞と不定詞を理解し、それらを用いて表現することができる
		13週	Unit 18　動名詞（2）	動名詞の完了形・受動態・動名詞を含む慣用表現を理解し、それらを用いて表現することができる
		14週	まとめ・総復習	これまでの学習内容を復習する
		15週	前期末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる
		16週	試験返却・解答・復習	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する
後期	3rdQ	1週	Unit 19　分詞（1）・　Unit 20　分詞（2）・　まとめのテスト	名詞を修飾する分詞・補語になる分詞・分詞を含む慣用表現・分詞構文・注意すべき分詞構文・独立分詞構文・付帯状況を表す分詞を理解し、それらを用いて表現することができる
		2週	Unit 21　関係詞（1）・　Unit 22　関係詞（2）	関係代名詞の主格、目的格、所有格・thatが好んで使われる場合・関係代名詞what・前置詞と関係代名詞・関係代名詞の非限定用法を理解し、それらを用いて表現することができる
		3週	Unit 23　関係詞（3）・　Unit 24　関係詞（4） Unit 11　健康	関係副詞・関係副詞の非限定用法・関係詞の注意すべき用法・複合関係詞を理解し、それらを用いて表現することができる
		4週	Unit 28　仮定法（1） Unit 12　工業	仮定法過去・仮定法過去完了を理解し、それらを用いて表現することができる
		5週	Unit 29　仮定法（2） Unit 13　コミュニケーション	未来についての仮定・願望を表す仮定法の表現・as if に続く仮定法を理解し、それらを用いて表現することができる
		6週	Unit 30　仮定法（3） Unit 14　科学技術	if の省略・if 節を使わない仮定法・仮定法現在・仮定法を使った慣用表現を理解し、それらを用いて表現することができる
		7週	Unit 31　接続詞（1） Unit 15　日常生活	等位接続詞・名詞節を導く従位接続詞を理解し、それらを用いて表現することができる
		8週	Unit 32　接続詞（2） Unit 16　社会	副詞節を導く従位接続詞・時を表す接続詞・条件、譲歩などを表す接続詞・原因、理由、結果、目的を表す接続詞を理解し、それらを用いて表現することができる
	4thQ	9週	Unit 33　話法 Unit 17　医療	時制の一致・話法の転換・間接話法の応用を理解し、それらを用いて表現することができる
		10週	Unit 34　否定（1） Unit 18　会話	否定語・準否定を理解し、それらを用いて表現することができる
		11週	Unit 36　強調・倒置 Unit 19　ノンフィクション	強調・倒置を理解し、それらを用いて表現することができる
		12週	Unit 41　代名詞（1） Unit 20　情報社会	人称代名詞・所有代名詞・再帰代名詞・it の用法を理解し、それらを用いて表現することができる
		13週	Unit 42　代名詞（2）	指示代名詞・不定代名詞・その他の注意すべき代名詞を理解し、それらを用いて表現することができる
		14週	まとめ・総復習	これまでの学習内容を復習する
		15週	学年末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる
		16週	試験返却・解答・復習	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	前1,前3,前5,前9,前11,前13,後1,後3,後5,後9,後11
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	前2,前4,前6,前10,前12,前14,後2,後4,後6,後10,後12,後14
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	前1,前3,前5,前9,前11,前13,後1,後3,後5,後9,後11,後13
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	前2,前4,前6,前10,前12,前14,後2,後4,後6,後10,後12,後14
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前1,前3,前5,前9,前11,前13,後1,後3,後5,後9,後11,後13
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	前1,前9,後1,後9

				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	前3,前11,後3,後11
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前5,前13,後5,後13
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	前1,前9,後1,後9
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	前1,前9,後1,後9
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	前1,前9,後1,後9
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	後1
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	後1
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	後1

評価割合

	試験	課題提出物の完成度	文法小テスト	長文小テスト	合計
総合評価割合	50	20	20	10	100
基礎的能力	50	20	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0